

FPG

Financial Products Group

2022年9月期 第2四半期連結決算説明資料 (2021年10月～2022年3月)



株式会社 F P G

(証券コード：7148)

上期実績

**コロナ禍から脱却し、前年同期比で大幅な増収・増益
1月31日公表の修正予想に対しても大幅に上振れ**

- ✓ リースファンド事業は第1四半期に続き、第2四半期も比較的収益率の高い案件の出資金販売が好調に推移
- ✓ 不動産ファンド事業は、好調な販売に支えられ積極的な組成を行った結果、売上高が前年同期比で倍増

通期予想

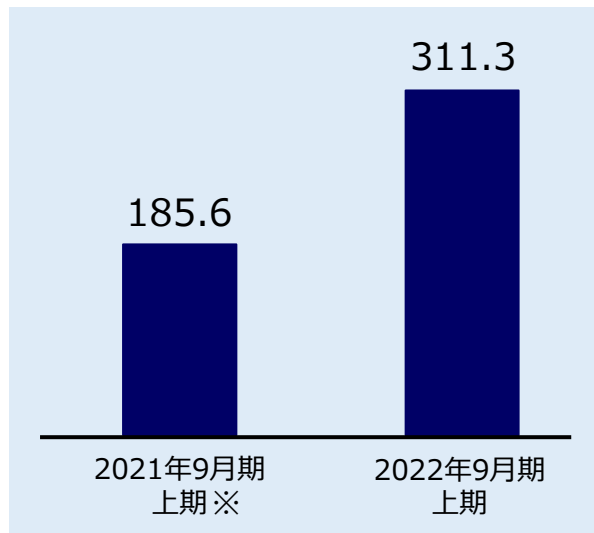
**4月26日に今期2度目となる業績予想の上方修正を公表
公約である「2023年9月期の経常利益100億円」を1年前倒し
期末配当金は、前年比で21.5円増配となる、1株当たり40.0円に上方修正**第2四半期の
トピックス**リースファンド事業、不動産ファンド事業ともに販売・組成が好調に推移**

- ✓ リースファンド事業において、海上輸送用コンテナ案件では過去最大規模となる総額376億円を組成
- ✓ 不動産ファンド事業において、過去最大規模の物件「F P G南青山ブルーサンクポイント」を取得する等、不動産小口化商品の積極的な組成を行った結果、四半期ベースで過去最高となる347億円を組成し、当事業の累計組成額は1,100億円を突破

売上高

約 1.7倍

- ✓ リースファンド事業に加え
不動産ファンド事業がけん引

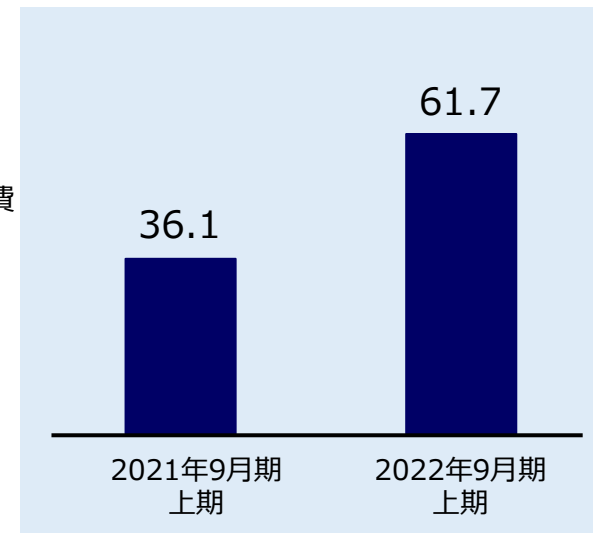


※「収益認識に関する会計基準」の適用により、比較のため不動産ファンド事業の売上高を総額方式で組み替えた値

営業利益

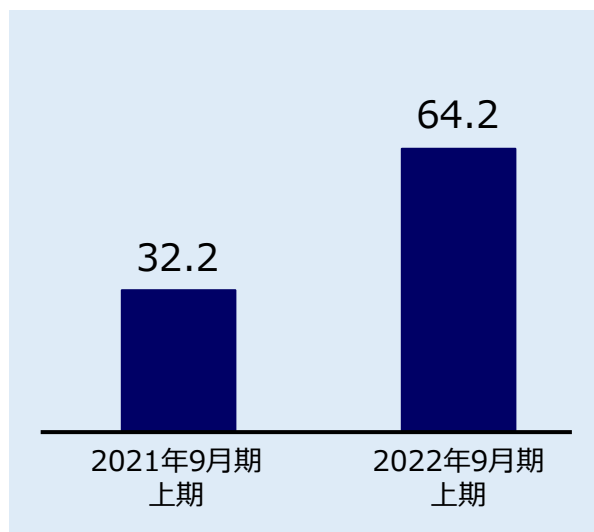
約 1.7倍

- ✓ 増収に加え販売費・一般管理費の適切なコントロールもあり、大幅増益



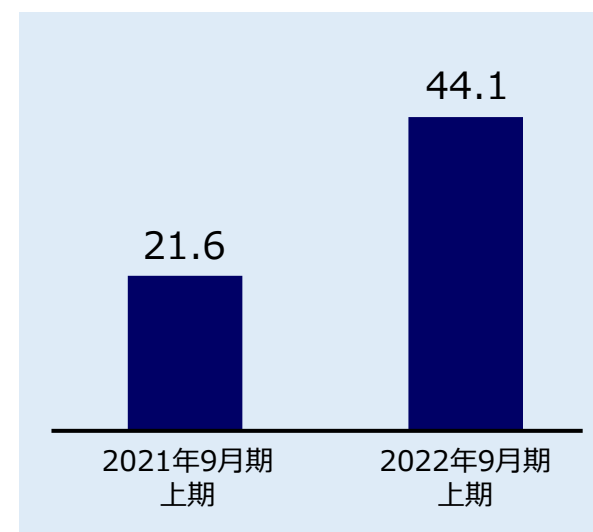
経常利益

約 2.0倍



純利益※

約 2.0倍



※親会社株主に帰属する
四半期純利益

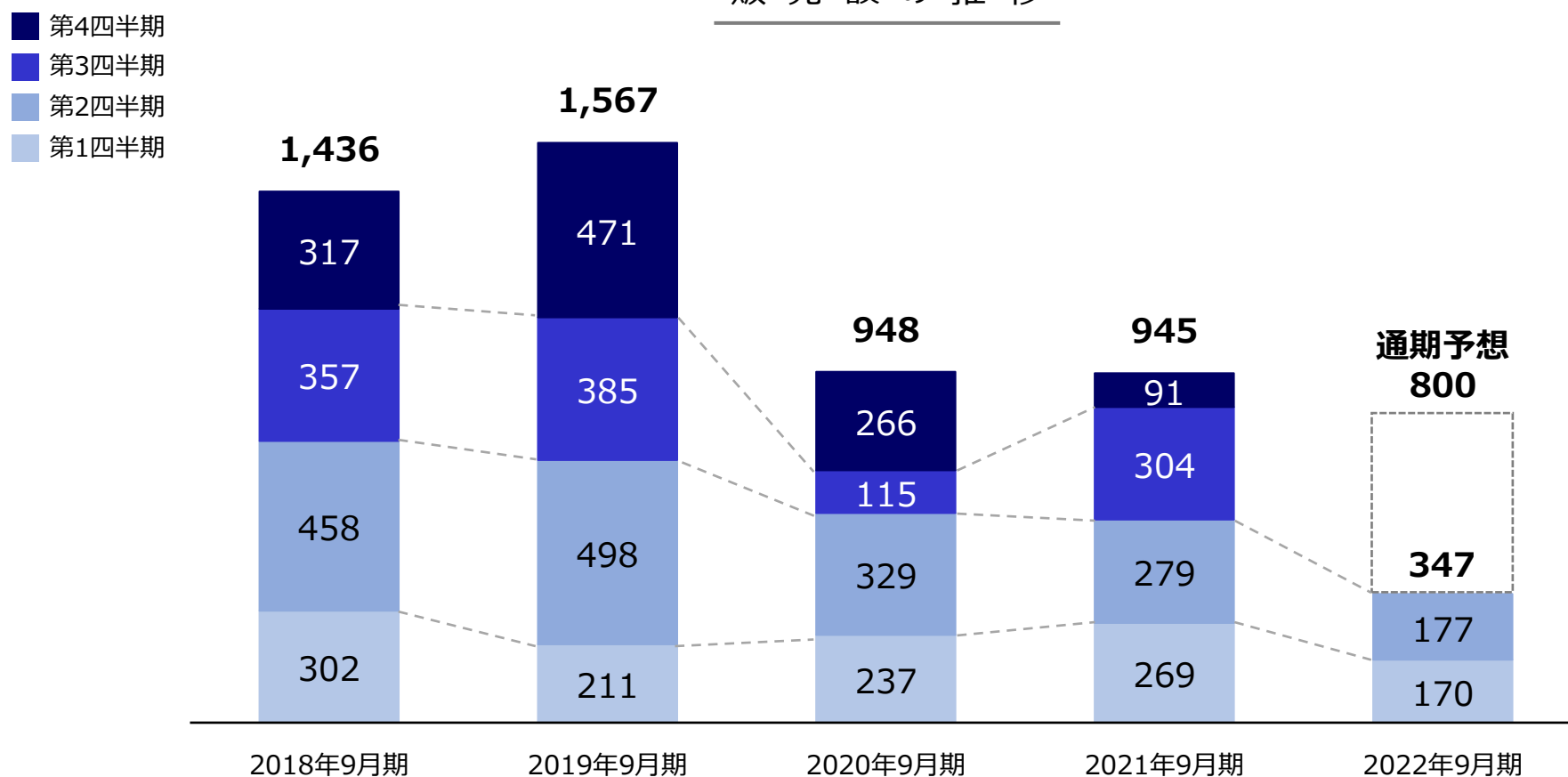
- 上期実績を踏まえ、通期業績予想を再度上方修正
- 公約である「2023年9月期の経常利益100億円」を1年前倒し。売上高経常利益率は20%台回復を見込む
 - ✓ リースファンド事業は、海運案件を中心に組成案件を積極的に獲得し、下期以降も出資金販売を積極的に実行
 - ✓ 不動産ファンド事業は、投資家からの強い引き合いが継続し、積極的な組成と販売の好循環を確立
- 1株当たり配当金予想額を40.0円に上方修正（前年比21.5円増配）

	上期			通期				
	2021年9月期 実績 ※	2022年9月期 実績	前年同期比	2021年9月期 実績 ※	2022年9月期		今回予想	
					前回予想 1/31公表	今回予想 4/26公表	対前年同期比	対前回予想比
売上高	185.6	311.3	+67.7%	335.8	440.0	490.0	+45.9%	+11.4%
リースファンド事業	67.9	76.7	+12.9%	111.6	113.5	135.0	+21.0%	+18.9%
不動産ファンド事業	112.5	228.3	+102.9%	212.8	313.5	342.0	+60.7%	+9.1%
その他事業	5.2	6.3	+21.2%	11.4	13.0	13.0	+13.9%	+0.0%
営業利益	36.1	61.7	+70.8%	52.3	78.0	97.0	+85.3%	+24.4%
経常利益	32.2	64.2	+99.0%	51.4	80.0	100.0	+94.2%	+25.0%
売上高経常利益率	17.4%	20.6%	+3.2%	15.3%	18.2%	20.4%	+5.1%	+2.2%
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	21.6	44.1	+103.8%	29.4	54.0	67.0	+127.4%	+24.1%
売上高当期純利益率	11.7%	14.2%	+2.5%	8.8%	12.3%	13.7%	+4.9%	+1.4%
1株当たり配当金（円）	-	-	-	18.5	32.0	40.0	+21.5円	+8.0円

※本事業年度との比較のため、不動産ファンド事業の売上高を総額方式で組み替えた値

■ 上期の出資金販売は347億円となり、想定通りの進捗

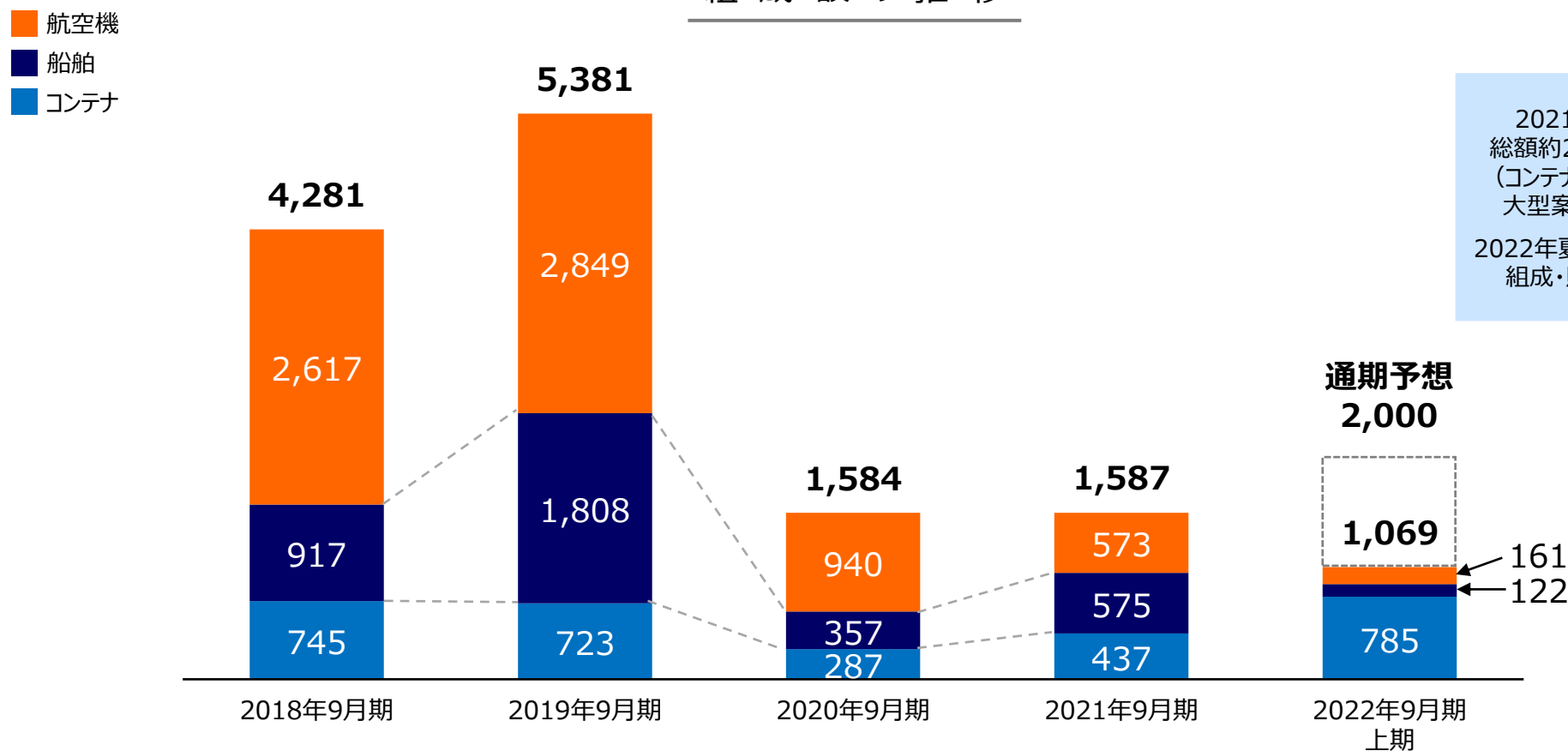
販売額の推移



リースファンド事業 組成

- 上期の組成は合計1,069億円となり、通期予想2,000億円に対して順調に進捗
- 第2四半期には、コンテナを対象とした過去最大規模となる総額376億円の組成を実施した結果、コンテナの組成額は累計785億円となり、コロナ禍以前の水準を上期で超過

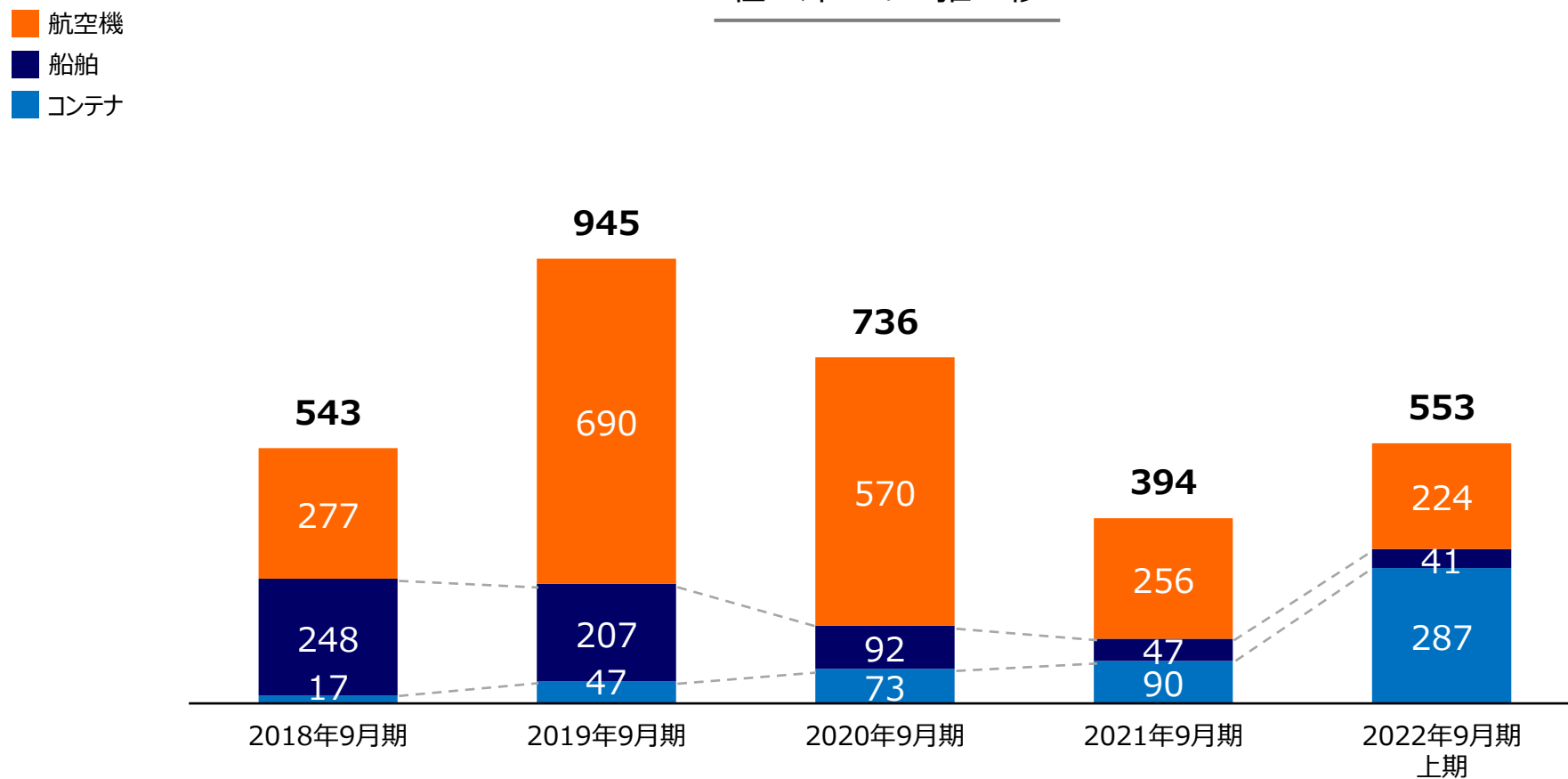
組成額の推移



リースファンド事業 在庫

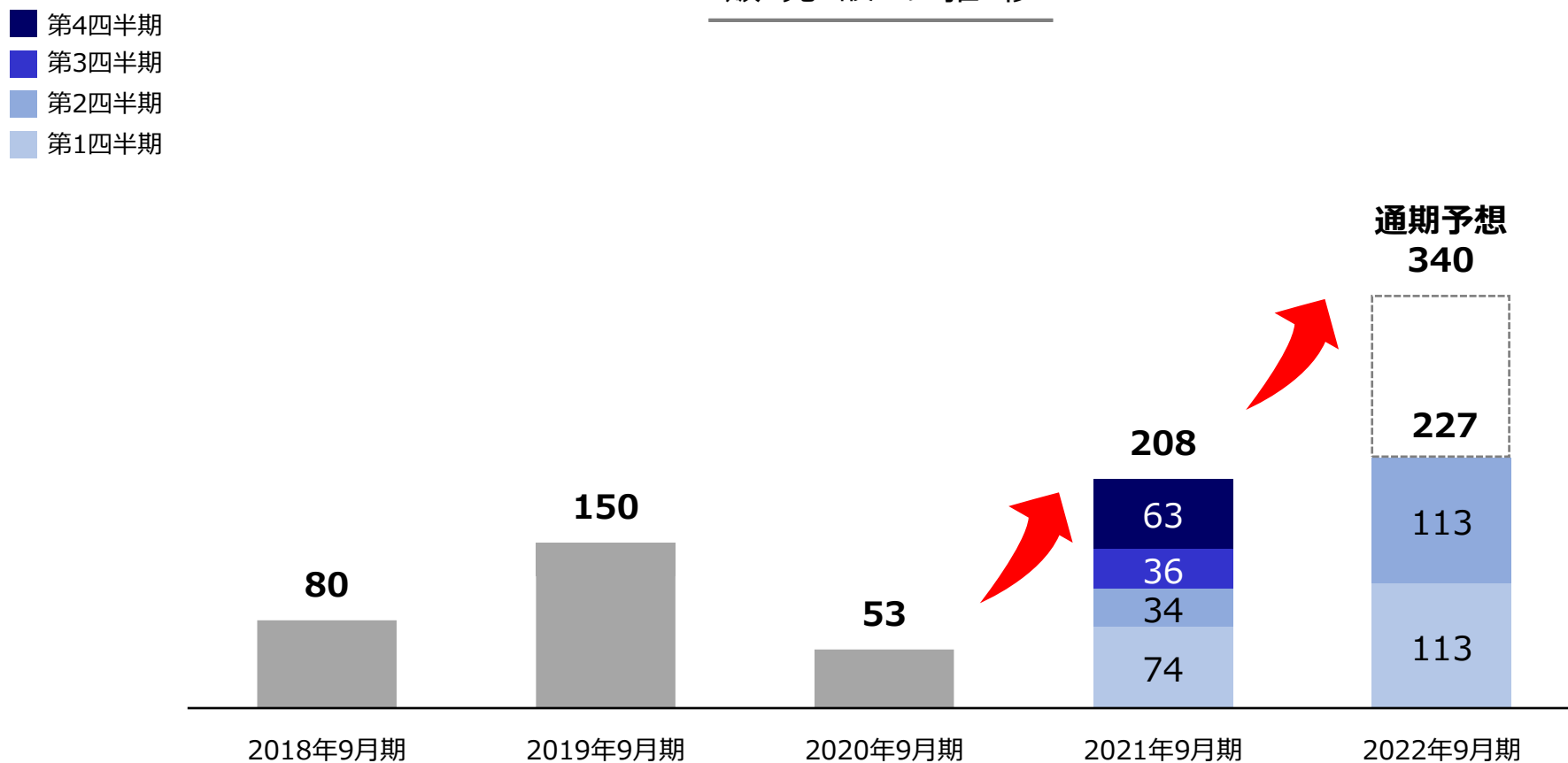
- 上期の組成が好調に推移し、前年通期実績を上回る販売在庫を確保
- コンテナの在庫は、海運マーケットにおけるグローバルな組成力を強みに、過去最高額まで積み上げ

在庫の推移



- 上期の販売額は227億円となり、過去最高を更新。通期予想に向けて順調な進捗
- 宅地建物取引士資格保有営業人員を拡充し、販売力を強化
- 首都圏マンション相続税課税に関する最高裁判決後^{※1}も強い引き合いが継続し、販売に影響は無し

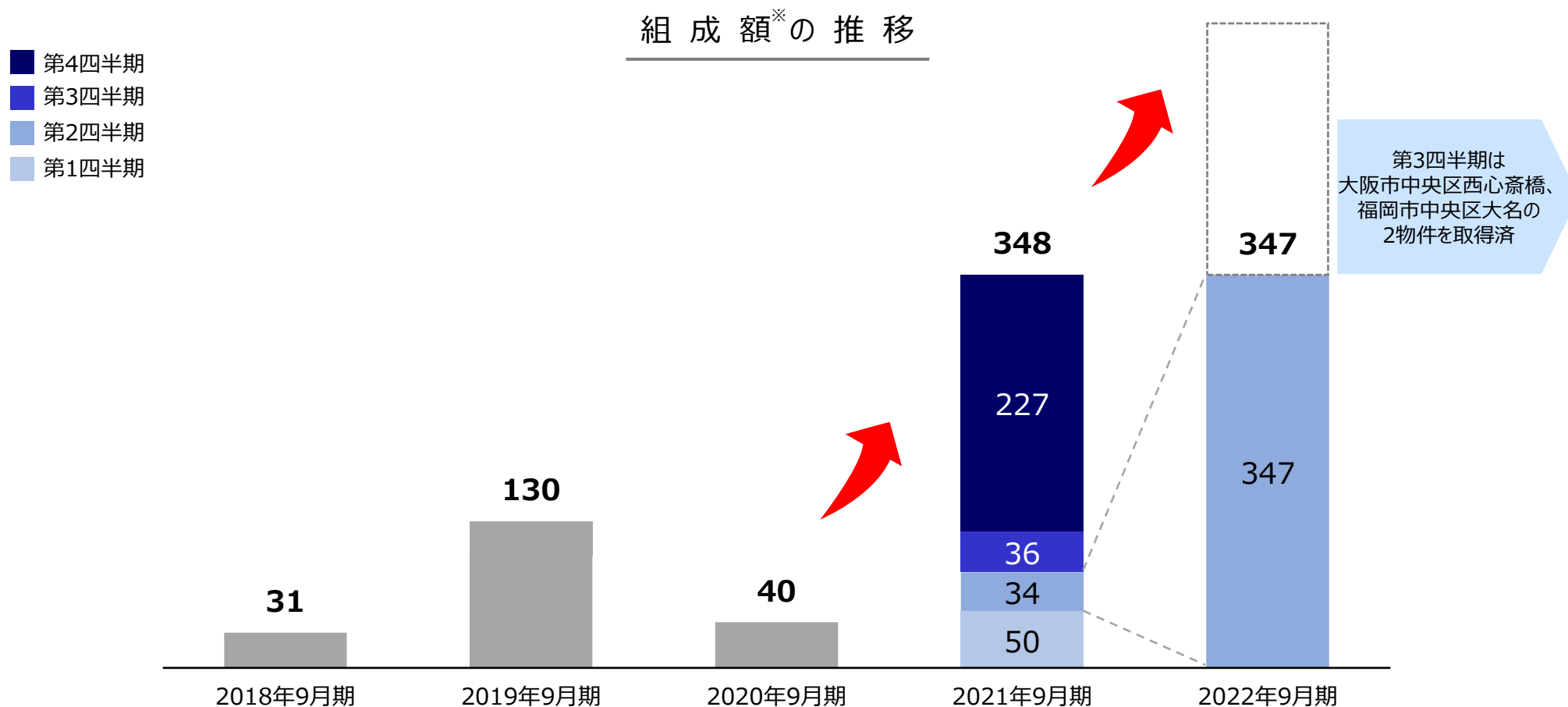
販売額^{※2}の推移



※1 2022年4月19日に最高裁判所第三法廷で争われた「相続税更正処分等取消請求事件」

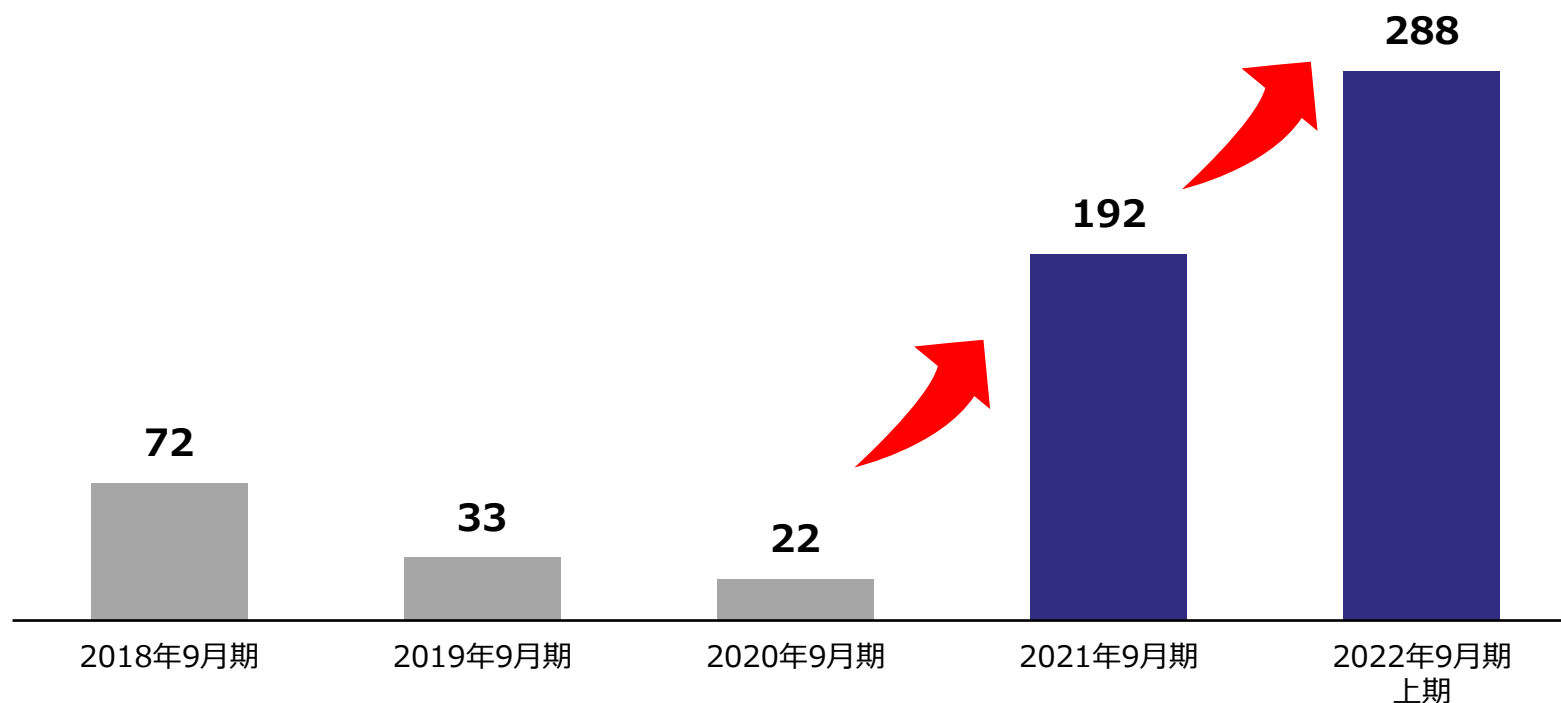
※2不動産小口化商品および開発案件の合計

- 第2四半期は、過去最大規模の物件「F P G南青山ブルーサンクポイント」を筆頭に、合計4物件を取得し、組成額は上期で前年通期実績と比肩する水準を達成
- 積極的な組成を行った結果、2022年3月末時点の累計組成額は、1,100億円を突破
今後も積極的に組成を拡大



- 過去最大規模の物件「F P G南青山ブルーサンクポイント」を筆頭に積極的な物件取得と組成の結果、上期末の在庫は288億円となり、過去最高を更新
- 第3四半期以降も新規物件の取得を推進し、さらなる在庫を確保

在庫の推移

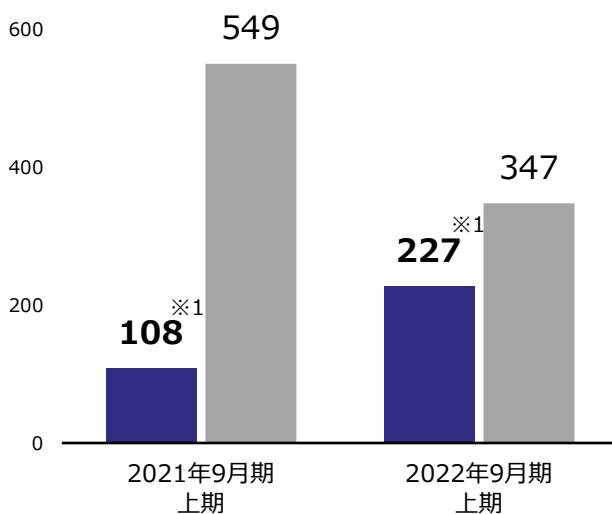


不動産ファンド事業の成長（リースファンド事業との比較）

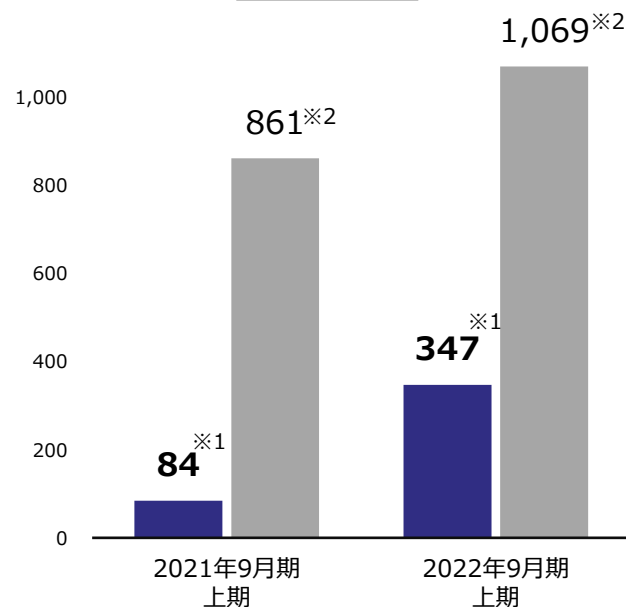
- 不動産ファンド事業の事業規模は順調に拡大中。将来的にリースファンド事業と同じ規模を目指す
 - ✓ 販売額は、前年同期比で倍増し、リースファンド事業の販売額の約 7 割の規模まで拡大
 - ✓ 組成額は、前年同期比で 4 倍超となり、リースファンド事業の約 3 割の規模まで拡大。ローンの有無を考慮すると、ほぼ同額の組成規模
 - ✓ 直近 2 期における不動産ファンド業の在庫は、リースファンド事業の 5 割超の規模で推移

■ 不動産ファンド事業
■ リースファンド事業

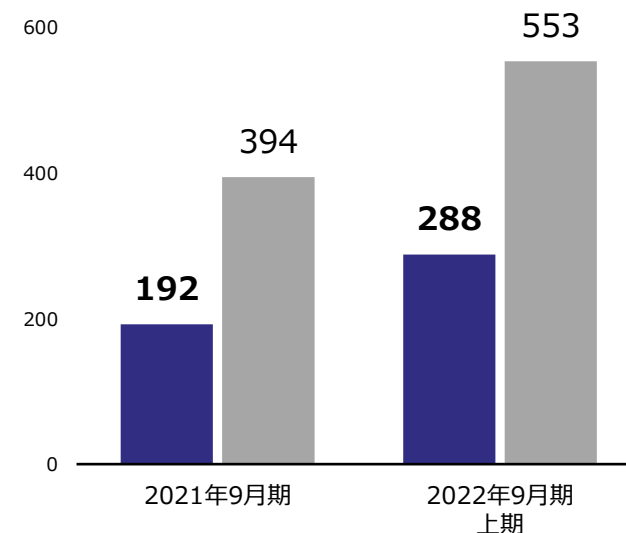
販売額



組成額



在庫



※1 不動産小口化商品および開発案件の合計

※2 リースファンド事業の組成額にはノンコースローンによる借り入れを含む。なお、ノンコースローンを活用した案件は約 7 割がノンコースローンによる借入れ、残り約 3 割が出資金となるケースが過半を占める

ご参考

連結損益計算書の概要

	2021年9月期 上期*	2022年9月期 上期	増減率
売上高	185.6	311.3	+67.7%
① 売上原価	117.2	215.8	+84.2%
売上総利益	68.4	95.4	+39.4%
販売費・一般管理費	32.3	33.7	+4.3%
営業利益	36.1	61.7	+70.8%
② 営業外収益	14.3	8.1	▲43.1%
③ 営業外費用	18.2	5.7	▲68.7%
経常利益	32.2	64.2	+99.0%
税引前四半期純利益	29.6	63.9	+115.7%
法人税等合計	8.4	19.9	+137.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	21.6	44.1	+103.8%

① 売上原価
不動産取得原価、リースファンド事業案件組成コスト、顧客紹介者への支払手数料等を含む。
上記に加え、2021年9月期はAir Mauritiusの経営破綻に伴う評価損を含む

② 営業外収益
一時的に立替えた出資金を投資家に販売する際に徴収する立替利息(受取利息として計上)、金銭の信託運用益等を含む

③ 営業外費用
資金調達に伴う支払利息等。2021年9月期はAir Mauritiusの経営破綻に伴う費用を含む

※ 不動産ファンド事業の売上高および売上原価を総額方式に組み替えた値

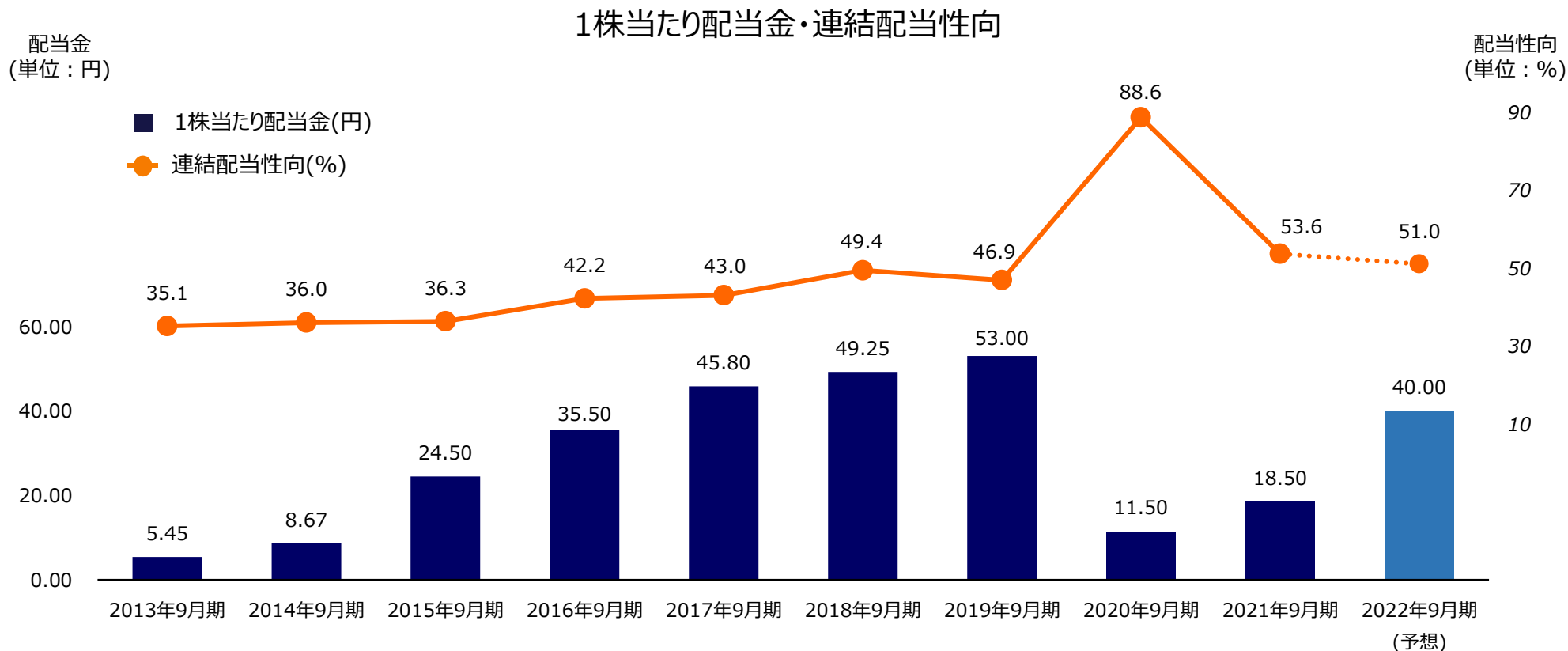
連結貸借対照表の概要

資産	2021年9月期	2022年9月期 上期末	増減
流動資産	857.8	1,028.7	+170.9
現金預金	208.1	128.2	▲79.9
① 商品出資金	208.6	359.7	+151.1
② 金銭の信託(組成用航空機)	185.3	193.4	+8.1
③ 組成用不動産	192.2	288.8	+96.6
固定資産	61.1	51.7	▲9.4
資産合計	918.9	1,080.5	+161.6
負債・純資産	2021年9月期	2022年9月期 上期末	増減
流動負債	472.7	579.5	+106.8
短期借入金等	387.6	449.9	+62.3
④ 前受金	47.2	-	▲47.2
④ 契約負債	-	73.8	+73.8
固定負債	152.2	178.3	+26.1
長期借入金等	147.3	173.2	+25.9
負債合計	625.0	757.9	+132.9
純資産合計	293.9	322.5	+28.6
負債純資産合計	918.9	1,080.5	+161.6

- ① 商品出資金
リースファンド事業において投資家に販売するまで当社グループが一時的に立替えている出資金
- ② 金銭の信託(組成用航空機)
航空機リース案件に係る信託受益権の在庫
- ③ 組成用不動産
不動産ファンド事業における在庫

- ④ 前受金/契約負債
主にリースファンド事業における手数料。
2021年9月期までは、「前受金」に計上していたが、「収益認識に関する会計基準」の適用に伴い、2022年9月期より、「契約負債」に計上

- 基本方針：持続的な成長と企業価値向上のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続して実施
- 配当性向：連結配当性向 50%を目安とする
- 通期業績予想の上方修正（今期2度目）により、2022年9月期の配当予想を上方修正
 - ✓ 2022年9月期(1/31 修正予想)：1株当たり32.0円（配当性向 50.6%）
 - ✓ 2022年9月期(4/26 修正予想)：1株当たり40.0円（配当性向 51.0%）





<JPX日経400>

東京証券取引所に上場する約3,700社の中から、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸条件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される株価指数。

F P Gは、2016年から5年連続で採用されている。



<S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数>

日本市場の代表的な株価指数であるTOPIXをユニバースとし、環境情報の開示状況、炭素効率性の水準に着目して構成銘柄のウェイトを決定する指数。

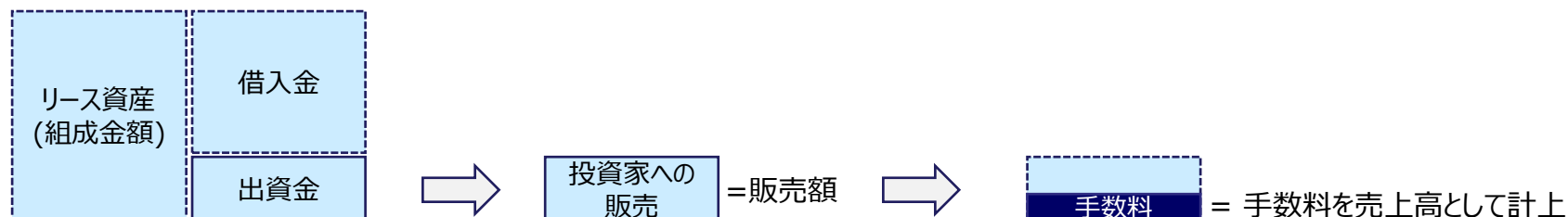
※2022年3月現在

本資料中の事業区分と売上高について

- 各事業区分と売上高
本決算説明資料では、当社の事業を以下3つの区分に分けて説明しております。

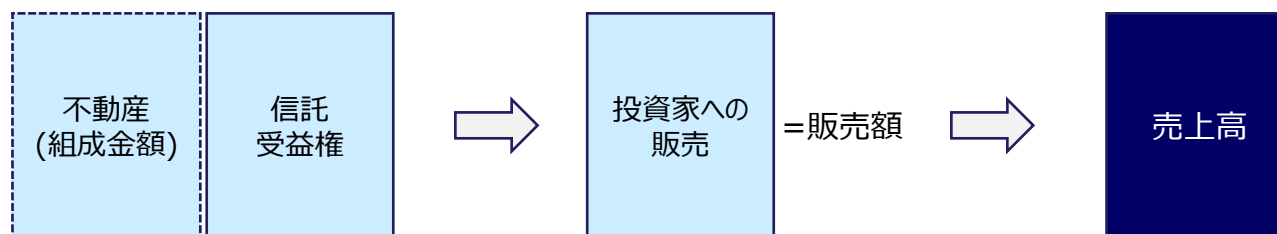
① リースファンド事業

航空機・船舶・コンテナを対象とした、オペレーティング・リース事業(リースファンド事業)の組成・管理および投資家への匿名組合出資持分・任意組合出資持分・信託受益権の販売を行っております。売上高は、オペレーティング・リース事業の組成におけるアレンジメント・フィー、組合出資持分を投資家に販売する際に受け取る手数料等を計上しております。なお、投資家への組合出資持分・信託受益権の販売額は売上高として計上しておりません。



② 不動産ファンド事業

株式会社FPG信託の信託機能を活用した不動産小口化商品の組成・管理および投資家への販売を行っております。投資家への販売額等を、売上高として計上しております。



③ その他事業

FinTech事業、保険事業、M&A事業、プライベートエクイティ事業および航空事業等を総称して、「その他事業」としております。FinTech事業の売上高は、システム開発やネットワークインフラ構築に関わる業務受託料等を計上しております。保険事業やM&A事業は手数料、プライベートエクイティ事業は譲渡収益、航空事業は輸送等の対価を、売上高として計上しております。

本資料に掲載されている業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいております。
実際の業績は、さまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、掲載の見通しとは異なる可能性があります。

【お問い合わせ】

株式会社 F P G

担当部署：経営企画部

TEL: (03) 5288-5691 E-mail: ir@fpg.jp URL: <https://www.fpg.jp/ir/inquiry.html>